

第7期さくら市高齢者総合保健福祉計画自己評価に対する評価・意見

①-①自立支援・介護予防・重度化防止について	さくら市の今後の取り組みについて
【評価】	
①パンフレットやホームページ、他機関と連携等による普及啓発	
<p>今後も新型コロナ対策が続くと予想されるので、動画の配信などすることで、よりわかりやすく体操ができると思います。</p>	<p>自宅や地域の通いの場で体操に取り組んでいただくため、市で作成した「はつらつ体操」の動画を市ホームページやYouTubeにおいて配信しています。今後も動画の活用方法や普及啓発方法に関して検討いたします。</p>
<p>「いきいき百歳体操」リーフレットを全戸に配布できたことは素晴らしいと思う。行政区回覧が中止されている期間中の情報発信について、ホームページやSNSの活用とあるが、高齢者にはアクセスし辛いツールだと思う。通常時からの高齢者に対するインターネットやモバイルツールの普及などの対策が今後重要となってくると考えるが、難しい課題だと思う。</p>	<p>高齢者においてはSNS等の利用が難しいため、運動のポイントを写真にまとめたパンフレットの配布やDVDの無料貸し出しを行っています。また「はつらつ体操」の普及・指導を行う介護予防ボランティアを育成し、サロンはもとより各種事業において体操の周知と普及に取り組んでいます。</p> <p>しかしながらコロナの感染拡大により活動が制限されていることから、感染拡大に配慮しつつ高齢者が利用しやすい取り組みについて検討しているところです。</p>
<p>ホームページやSNSになじみのない高齢者が多いことが課題。</p>	
<p>さまざまな方法を用いて、情報発信することは必要だと思う。</p>	
<p>コロナ禍で、生活様式が頻繁に変わる中、情報の発信を色々工夫しながら行っていたと思う。今後は、情報の内容を必要としている人たちに届く方法を検討することが必要ではないか。</p>	
<p>常に様々な媒体を通して、情報を発信され、目標を達成されたと思います。</p>	
<p>コロナ禍での活動となるため、普及啓発事業は非常に限られたものになります。しかし創意工夫を重ねながら良い取り組みが出来たと思います。</p>	
<p>出来ていると思われる。</p>	
<p>継続して欲しい</p>	
②水中運動教室等二次予防対象者事業の開催	
<p>私は、さくら市内のスポーツジムに通っています。プールの施設を利用していますが、70歳代の方がとても多く利用されています。そちらの施設でもさくら市と合同で事業ができれば、参加者が増えて良いと思います。</p>	<p>現在パシフィックスポーツプラザさくらとの委託事業として年に2回プールでの運動教室を実施しており、今後も各施設と連携した事業の実施について検討してまいります。</p>
<p>コロナ禍の開催で、予定開催数より少ないが、どの程度効果があるのか検証してほしい。</p> <p>効果があるようであれば、実施出来る運動等各サロンで取り入れてもよいと思う。</p>	<p>事業の実施にあたっては、体力測定等により効果を測定し検証しています。また、効果の高い事業についてはサロン等への普及なども検討してまいります。</p>
<p>限られた時間と人数でフレイル予防などを実施できたことは良かったと思われます。SNSなどの発信では高齢者に伝わり難いと思われるため、TVなどの利用も検討してみてもどうか。現実的に可能かどうかは別として「とちぎTV」などで発信してみてもどうか。</p>	<p>TVなどの活用については非常に効果が高いものと考えられますが、費用を考慮すると市単独で実施することは困難です。全県的な取り組みが必要なため県、国保連合会等に対し要望・提案をしております。</p>
<p>コロナ禍にあった介護予防の手法を検討する必要がある。</p>	<p>いきいき百歳体操の啓発リーフレットを全戸配布するなどの取り組みを行いました。その後のアンケートでそのリーフレットを見ていないと回答された方もいらっしゃったため、複数のツールを活用してまいります。</p>
<p>コロナのため評価困難と思われる</p>	
<p>感染症対策の情報を常に取り入れ、参加者の要望を聞きながら教室開催の工夫を行っていたと思う。</p>	<p>感染拡大状況に応じて、工夫しながら実施していきます。</p>
<p>今後もコロナ等感染症への対応等を、専門職の意見を聞きながら、引き続き事業を実施してほしい。</p>	
<p>運動や交流の機会を継続できたことは、目標を十分達成できたと思います。</p>	
<p>継続して欲しい</p>	
<p>コロナ禍において、フレイル予防の活動を左記の様に多数開催できたことは非常に評価することが出来ると思う。</p>	
③健康診査、健康相談の実施	

<p>避難行動要支援者台帳に記載されている方は、有事の際を念においての対応を検討して頂く必要があると思われる。</p>	<p>今般災害対策基本法が改正され、避難行動要支援者の個別避難計画の策定が義務付けられました。策定にあたっては介護専門職等による支援を活用することも示されました。具体的な対応について情報を収集するとともに今後検討していく必要がありますが、引き続きご協力お願いいたします。</p>
<p>避難行動要支援者台帳の更新のために、定期的に連絡を取る方が良いと思う。</p>	
<p>独居で生活をしている高齢者の方が増えてきているので、とても良い取り組みだと思います。定期的な確認で災害時でも慌てることなく、避難行動ができると思います。</p>	
<p>生活コーディネーターの重要性を改めて、認識することができました。また、適切な対応かと思えます。</p>	
<p>継続して頂きたいです。</p>	<p>サロンなど高齢者にとって身近な通いの場に保健師等の医療専門職を派遣し、介護予防を行うとともに健康や健診結果の相談を行うこととしていました。しかしながらコロナ禍にあってサロン等の開催が難しい状況にあるため、新たな取り組みを検討しているところで</p>
<p>高齢者にわかりやすい手段を用いたことが評価できる。今後も定期的に事業を継続するよう要望する。</p>	
<p>コロナ禍の中、電話での情報発信を行うことで、高齢者の生の声を聴き、感染への不安が少しでも解消し、健康診査や健康相談の受診の必要性を理解してもらう機会になったと思う。しかし、高齢者が健診や相談に行ける工夫（家族や介護者の協力）も必要ではないか。</p>	
<p>実際に災害が発生した際に、避難行動要支援者台帳に登録されている高齢者に対し、市としてどれ程の支援（安否確認、救助）のキャパシティがあるかを事前に把握しておく必要があると考える。また、そのキャパシティを市民に周知することで、自助や共助への意識が高まると思う。</p>	<p>災害時においては人員や避難施設が限られているため、昨年度浸水想定区域に住んでいる避難行動要支援者を対象に避難に関するスクリーニング調査を実施し個別支援計画をたところす。今後も関係機関と連携を図り、制度の周知を図るとともに情報の把握に努めてます。</p>
<p>避難行動要支援者台帳の</p>	
<p>更新のために、定期的に</p>	
<p>連絡を取る方が良いと思う。</p>	<p>自治会、自主防災組織や民生委員等、及び介護専門職と連携し、定期的実施できるよう検討します。</p>
<p>継続して欲しい</p>	
<p><b>④総合事業(通所型A・訪問型A)の事業所説明会</b></p>	
<p>各事業所において、総合事業の取り組みが積極的ではないので、市民の方が利用しやすい体制づくりが必要かなと思います。</p>	<p>各事業所の意見を聞きながら、より利用し易い総合事業（緩和型A）の体制について検討してまいります。</p>
<p>現事業所にも情報提供したり、制度改正等の情報が伝わっているのかを、市から確認してほしかった。</p>	
<p>事業所への情報提供、指導等は行政の役割です。正しい理解が得られたか、事業所に対するこまめなチェックを行う等、努めてもらいたい。</p>	
<p>制度説明会は皆が一堂に集合して行っただけが形ではないと考える。私が所属する居宅事業を取って考えると、制度改正の情報が逐一メールで頂くことが出来たため、非常にありがたかった。不明な点は個別に電話連絡を行うことで、細かな部分まで市の職員の皆様がお答えいただけたので、会が開催されなかったことについての不便は特に感じていない。</p>	<p>制度改正等については、国等から周知された後直ちにメールによる情報の提供に努めているところであります。重要な制度改正については、会議を開催し説明を検討していましたが、現状は開催が難しい状況にありました。今後は、会議の開催を基本として小規模人数による開催やズームによる会議の開催など制度の周知に取り組んでいきます。</p>
<p>情報発信を適宜、実施されていたかと思えます。</p>	
<p>良いと思います。</p>	
<p>ZOOMなどを用いて、オンラインで事業所説明会を行った方が良いと思う。</p>	
<p>コロナ禍の中、行政間の情報共有が大変な状況下での対応は、非常に大変だったと思う。少しでも現場での声が行政に届くよう会議開催の工夫をお願いしたい。</p>	<p>各事業所においてIT環境が異なるため、各事業者と連携のうえ、有効かつ効果的な会議の開催について検討します。</p>

①-②生活支援体制整備について	さくら市の今後の取り組みについて
【評価】	
①生活支援コーディネーターの活用	
ニーズの抽出などが的確に行えるので、住民が主体となるサービスは、とても理想的だと思います。	サービスが定着するように実施団体をサポートしてまいります。
先進事例を踏まえ、積極的に推進されたことは、素晴らしいと思います。	
良いと思います。	
今後も住民の声を聴き、必要なサービスを創設して欲しい。	今後も情報の発信方法等について工夫してまいります。
今後も、引き続き生活支援コーディネーターからの情報を発信し、多くの方にサービスを理解してもらうことが必要だと思う。もっと情報の発信方法や回数を増やす工夫をしてはどうか。	
今後も先進事例を参考に、必要なサービスを創設して欲しいです	
評価できる。	検討いたします。 今後も継続いたします。
②生活支援協議会の推進	
制度のどの部分が改善したのかが不明。	制度内容について説明してまいります。
地域づくり勉強会と生活支援協議会の内容が関連づけられればと思います。	連携を強化してまいります。
今後の活躍に期待します。	今後も推進してまいります。
良いと思います。	
活発な議論の場を設ける等、事業が機能されていたと思います。	
コロナ禍での会議開催は大変だったと思うが、協議に参加している方の声が、少しでも反映できるよう、取り組みにつなげられるようになると思う。また、地域づくりの勉強会の開催をもっと住民に発信してもよいのでは。	情報発信を強化してまいります。
③生活支援サービスの推進	
タクシー会社1社になったため需要と供給についての検討はあったのか？	タクシーの需要と供給について検討はしていません。タクシー会社が1社となったことについて、特段の報告はされていませんが、今後高齢者への影響等について関係者と連携し情報の把握に努めます。
2)の紙おむつの給付について、老老介護などで紙おむつを薬局などに取りにくるのが大変という意見があります。また、おむつ券だけでは、賄えないとの意見もよくききます。大田原市のようにおむつ券ではなく、現物の給付が良いと思います。	紙おむつ給付事業については、現状を維持する考えですが、大田原市をはじめ他市町の取組み等については今後の参考にすべく、情報収集していきたいと思えます。
サービスの周知の結果、多くの利用に結びついたと思います。	今後も事業の周知に努めていきます。
給食サービスだが、日曜・祭日が続く日はどちらかでもサービスがあればという（市民の）声があった。	給食サービスについては現状を維持する考えですが、他市町の取組み等も参考にしていきたいと思えます。
在宅生活者に必要なサービスを継続して検討してもらいたい。	継続して検討していきます。
コロナ禍の中での情報提供大変だったと思うが、自立した生活のためのサービスという情報の発信をもっと前面に出してもよいのではないかと。	今後も更なる事業の周知について努めていきます。
福祉タクシーの代替案の検討をして欲しい	有償による乗客移送については、乗客の安全を確保するため厳しく制限されています。このため関係機関等との意見交換や協議検討に取り組んでいるところであります。

①-③認知症施策について	さくら市の今後の取り組みについて
【評価】	
①認知症の普及啓発	
認知症サポーターの認知を広めるべく小学校や中学校での行ってもいいのではないかと？	市内の全小学校に対して、毎年認知症サポーター養成講座を実施しています。中学校や高等学校はコロナの影響で開催が中止となっていますが、感染状況を注視しつつ再開できたらと考えています。
養成講座の実施が大変な中の受講者の増加。認知症への理解を広める事の必要性を考えると、いろいろな職場や教育の場での開催を行ってほしい。	企業や地域などに対しても感染症対策を行いながらオンライン開催も含めて実施してまいります。
サポーターになった方の交流やステップアップ講座を、オンラインで行うのはどうでしょう。	これから実施していく必要があるステップアップ講座に関して、手法の一つとして検討してまいります。
事業所での開催は、従業者が気軽に参加できて良いと思います。	事業所へのPRも実施いたします。
オンラインを活用して、学校や多くの企業への講座の実施を継続して欲しい	必要に応じてオンラインを活用し、コロナ渦での普及啓発を図ってまいります。
Zoomなどを積極的に利用して、活動が円滑に進むのが望ましいです。	
オンラインを活用して実施したことは、大変すばらしいと思います。今後もリモートによる研修方法を推進していただきたいです。	感染症対策を行いながら継続いたします。
本取組については、さくら市の姿勢は大変評価できる。引きつづき事業を継続してほしい。	
良いと思います。	
②認知症の早期診断・早期対応体制の整備	
認知機能の低下は、だれもがなる可能性があるため、気軽に相談できる場所があると良いと思います。	同目的で図書館で毎月「もの忘れ相談会」を実施しており、周知を図っていきます。また、グループホーム等で相談・支援が受けられる「認知症伴走型支援」の実施を検討しています。
認知症カフェを活用した取り組みは、自然な形で無理なく、参加できるため、より充実させていきたいと思っています。	引き続き認知症カフェの活動をサポートしてまいります。
高齢者だけでなく、年齢下げること認知症への理解を広める活動を一緒に行うことで早期診断、早期対策につながると思う。	学校のほか、働き盛り世代に対する普及啓発として、企業での認知症サポーター養成講座の実施も積極的に行っていきたいと考えています。
②、③と、どちらも移動手段がない方には送迎があると良いと思います。（既にあったら済みません） 訪問看護でも各活動の周知、参加への声かけをしていこうと思います。	現在、送迎は行っておりません。利用可能な方へはデマンドタクシー等を紹介するとともに、送迎支援に関しても検討させていただきます。認知症カフェでは参加者が自主的に乗合で参加されているケースもございます。
評価できる。	継続して取り組んでまいります。
良いと思います。	
今後も感染予防を行いながら、事業継続してほしい。	
③地域での日常生活・家族支援の強化	
なぜ、1か所減ったのか原因の追究は？	認知症カフェで使用させていただいていた建物が老朽化により使用できなくなってしまったことによるものです。
上記に記述した通り、とても良い取り組みだと思います。数を増やす以前に、今ある認知症カフェを充実させることが必要だと思います。	引き続き認知症カフェの活動をサポートいたします。
他地区にもカフェを増設した方が良いと思う。	認知症カフェの増設に関して、ご協力いただける団体によるカフェの開設やその後の運営に関するサポートを行ってまいります。
高齢者が一人でも来れる場所や利用しやすい環境の工夫をお願いしたい。	
避難行動要支援者台帳の更新のために、定期的に連絡を取る方が良いと思う。	市内の医療機関や事業所にポスター掲示依頼をさせていただいており、その他効果的な掲示場所に関しても検討いたします。
市民に向けた発信など今後はSNSなど利用することでも良いかと思います。	周知方法について、検討してまいります。
まだまだ十分な周知がなされてない。今後さらなる努力を期待する。	

②介護給付適正化について		さくら市の今後の取り組みについて
【評価】		
①要介護認定の適正化		
十分、実施していると思います。		
今後も継続することを期待する。		今後も実施してまいります。
継続して実施して欲しい。		
②ケアプラン点検		
連絡協議会はコロナ禍のため中止しているが、ケアプラン点検の実施は市としては必要であるのではないかと考えます。連絡協議会の一員として意見を述べるとすれば市や包括の方から連絡協議会に対し、ケアプラン点検についての相談を受けておりません。		
協議会を開催できるよう、行政が協力できたのか？		ケアマネジャー連絡協議会、地域包括支援センターと連携しながら、オンライン開催も含めてケアプラン点検の実施方法について協議を進めてまいります。8月現在、感染が急激に拡大しており、居宅介護支援事業所の負担も増加していると考えられることから、協議開始の時期についても配慮いたします。
ZOOMなどオンラインで意見交換ができないか。ケアマネ連絡協議会と協議するのはどうか。		
コロナ禍にあった手法を検討する必要がある。		
オンライン等を活用して実施されることを期待しています。		
コロナ禍の状況の中で会議の開催の工夫をお願いしたい。		
ワクチン接種がもう少し拡大するまでの我慢かと。		
③住宅改修等の点検		
事前に調査を行っているが、手すり等設置後に使用していないケースもあり、無駄になっていることもある。設置後にも評価を行い、適切な使用状況を確認してもよいのでは		住宅改修にあたっては審査の際に、建築専門職やリハビリテーション専門職による点検する仕組みの導入について検討します。
とても充実されていると思います。		
今後も継続することを期待する。		
継続して実施して欲しい。		
④医療情報との突合、縦覧点検		
適切に実施されていると思います。		
今後も継続することを期待する。		今後も実施してまいります。
継続して実施して欲しい。		
⑤介護給付費通知送付		
適切に実施されていると思います。		
避難行動要支援者台帳の更新のために、定期的に連絡を取る方が良いと思う。		今後も実施してまいります。
継続して実施して欲しい。		